

伊勢別街道02 高野尾—窪田—一身田—江戸橋



銭懸松 (現在の松五代目)

祠に1.5mほどの松の枯れ木に紐に吊るした銭が懸かっている。由来いろいろあるが2つ。

由来1

豊受大神の行宮の跡に松を植え、旅人が神宮を遥拝、御供料の銭をを松の枝に懸け豊作祈願したという。

由来2

小野篁が遣唐副使を拒否し隠岐に流された時妻、命姫が夫の罪が許されることを祈願に盲人1人を連れ伊勢への途次、ここで草刈男に伊勢まで20日かかると聞くと落胆。伊勢まで行くのをあきらめそばの松の枝を神宮に見立てさい銭を吊るし遥拝したという。男がさい銭を取ろうとすると蛇になって襲った。男は罪を悔い、命姫を伊勢まで送ったという。



窪田の常夜燈

高さ8.6mで市内で最大。文化14年(1817)建立。台座には江州蒲生郡、愛知郡、野洲郡などの寄進者の名が刻まれている。一説によると、神宮に寄進すべく江州から運んできた荷車が壊れ止む無くここに建てたという。



本陣、問屋、高札場があった。明治30年参宮鉄道開通とともに衰退。

明治天皇小休所跡碑

当時の街道筋

六大院

文安年間(1444-48)開創。後花園天皇の綸旨を賜る。天正8年(1580)再興、津観音境内に移る。大宝院と称す。

せんじゅじ
高田本山専修寺

東一身田駅

一身田平野

高田本山駅

江戸橋駅

分岐点

常夜燈

高さ5.4m寄進者は嶋田氏と刻まれ1人。安永6年(1777)建立。津市内最古。



高田本山専修寺

親鸞上人が嘉禄2年(1226)54歳の時に栃木県二宮町高田に専修念仏の根本道場をおこした。本尊は長野県善光寺よりお迎えした"一光三尊仏"を安置。門弟の真仏上人が中心となり関東各地に布教する。こ一身田には寛正6年(1465)第10世真慧上人が東海北陸の教化のため無量寿院(専修寺)を建立。関東の本山が戦火で焼失後、歴代上人がここに移住するようになり本山と定着した。信長、秀吉、家康らとも協力、藤堂家と姻戚関係結び拡大、発展をしてきた。親鸞聖人の木像祀る御影堂(国重文)、木造阿弥陀如来立像を安置する如来堂(鎌倉時代、国重文)、山門(県文化)唐門(県文化)はじめ多数の宝物がある。

専修寺を中心に周囲に末寺、家老、用人を配置、一部商家も取り込んで外周を堀で囲んでいた。堀に架かる橋は3箇所夜間は閉じるなど不審者の侵入を防いでいた。今も東西500m、南北450mの環濠に囲まれた家並み残る。



如来堂

御影堂平成の大修理
平成20年完成予定



山門



唐門

いっしんでん 一身田

この地名は大宝律令のなごり、そのころ土地はすべて公有地。公田の中には朝廷の高位高官や皇族に一代に限って支給された田があった。この田地を"一身田"といった。このあたり一身田があったことから地名となる。